ICT 活用

大阪市立光陽特別支援学校
○小学部　小池佳世、他病弱部教員

「入院児童を取り巻く環境の変化に応じた学習支援のあり方について」
-ICT の効果的な活用　3 年間の取り組みを通して-

1　児童を取り巻く環境

入院時の児童の過ごし方に変化が見られる。ゲーム機器での遊びに wifi 通信が加わり、タブレットでの動画視聴や携帯電話の SMS で日常的にやりとりを行っている。低学年から保護者との連絡に利用しており、高学年になると前籍校の友だちから授業の進度や行事の様子を直接知らせてもらっている。このように 15 歳以下の児童が入室できない小児病棟での入院生活において、保護者や兄弟，友だちとリアルタイムに連絡が取り合えることは治療と向き合う児童にとって大きな心の支えとなっている。日常生活を過ごすうえで、情報端末は入院時でも身近な機器として活用されている。

2　本校（病弱部）の ICT 教育環境

H24 年度	H25 年度	H26 年度
大阪市内の学校 520 校 大阪市独自の回線 「にぎわいネット」 を主に活用 ・ ノートパソコン ・ 有線 LAN ・ テレビ会議システム	・大型液晶テレビ導入 ・HDMI ケーブル接続 ・プロジェクター ・iPad の導入 小学部：4 台 中学部：4 台 ・ モバイル wifi ・ Skype,　facetime	「がんばる先生支援事業」 「校長戦略予算」 「文科省支援事業」による ・iPad の追加導入 ・ノートパソコン数台 ・モバイル wifi ・Google Hangout ・Evernote

3　ICT 活用事例

（1）　総合医療センター分教室での取り組み

ア　ノートパソコン：新聞作り、はがき、グラフ、マークのデザイン、チャイム
プログラミング、プレゼンテーション、英語

イ　タブレット　　：書画カメラ、観察記録、ニュース番組、動画編集、作曲
リアルタイムアンサー、コマ撮り動画、ダンスの動き確認

ウ　通信　　：教室と病室、教室と栽培園、教室とお店、教室と前籍校

（2）　訪問教育での取り組み

Skype による本校 C-NET との外国語活動、栽培記録、地域調べ、読み上げ機能、デイジー教科書など合理的配慮としてのツール、学習記録、ドロップトーク

（3）　本校・市大分教室・総合医療センター分教室・各訪問先病院全体での取り組み

交流「つなぐ」-がんばる先生支援事業-、職員朝礼の配信、会議資料の共有化

4　今後の課題

（1）　教員の ICT 機器活用　-病棟に持ち込みの難しい動植物、体験授業の充実にむけて-

（2）　合理的配慮としての活用　-復学時の支援を含めて-

（3）　企業・大学との連携